

ヒアリのいびき、耳しく知っていますか？

改訂版

もし、ヒアリに刺されたら



ヒアリやアカカミアリの毒への反応は人によって大きく異なります。体調に変化がなくても、20～30分程度は刺された部位を冷たいタオルや保冷剤などで冷やしながらかん静にし、様子を見て下さい。その間、なるべく一人にならないようにしましょう。

全ての人にあらわれる症状

焼けるような痛み、かゆみ、腫(うみ)

刺された瞬間に、熱いと感じるような、激しい痛みを感じます。そして刺された部位に小さな赤みが出てきて、翌日には赤みの中央に腫がたまつたようになります。軽いかゆみが出ることもありますが、その後は皮膚症状が徐々に改善していきます。

ヒアリ類の毒にアレルギー体質を持っている人に起こる症状

じんましん

刺された直後から刺された部分を中心に赤みや腫れが起こり、かゆくなります。時には全身にかゆみをとまなう赤みやミミズ腫れ(じんましん)が現れることがあります。じんましんが出たり、体調不良などの異常を感じた場合は、すぐに医療機関(病院)を受診してください。

呼吸困難・血圧低下・意識障害など

刺されて20～30分以内に、息苦しさ、声がれ、激しい動悸やめまい、腹痛などを起こすことがあり、進行すると血圧が急に低下して意識を失うこともあります。このような症状が現れた場合には、強いアレルギー反応による「アナフィラキシーショック」の可能性が高く、処置が遅れると生命の危険を伴いますので、救急車を呼ぶ必要があります。

「アリに刺されたこと」「アナフィラキシーショックの可能性があること」を伝え、すぐに治療してもらってください。刺したアリの死骸を持参すると、診断に役立ちます。

※ヒアリの毒には、ハチ毒との共通成分も含まれているため、ハチ毒アレルギーを持つ方は特に注意が必要です。

ストップ・ザ・ヒアリ

ヒアリって、どんなところにいるの？ 私たちの暮らしに、どんな影響があるの？



どんなことに気をつければいいの？

「ヒアリかな？」と思ったら

ヒアリ相談ダイヤル **0570-046-110** または、お近くの市区町村に連絡してください。

アリが少数の場合	アリの集団や巣をみつけた場合
スプレー式殺虫剤等で殺虫してください。	絶対に刺激せず、すぐにヒアリ相談ダイヤルまたは最寄りの市区町村に連絡してください。
<ul style="list-style-type: none"> ●ヒアリかどうか正確に判別が必要な場合は、ヒアリ相談ダイヤルまたは市区町村に連絡し、郵送または持参する。 ●死骸であっても素手でさわらないこと。 ●判別用のアリはセロハンテープに貼り付けないこと。 	<ul style="list-style-type: none"> ●アリや巣をつついたり、踏んだり、殺虫剤や熱湯をかけたりしないこと。 ●駆除は、状況に応じて専門家に相談しながら実施する必要があります。 ●ヒアリであると確認されるまでは、むやみに毒餌剤をおくことは避けてください。在交のアリやその他の生物を殺してしまい、かえってヒアリが定着しやすいつ環境をつくってしまうおそれがあります。

ヒアリは、「火蟻」と書き、毒針で刺されるとやけどのような激しい痛みを感じます。定着してしまうと、暮らしや産業にも大きな影響が出ます。おそれすぎず、油断せず、いざというときにあわてないために、ヒアリについて正しく知っておきましょう。

さらに詳しく知りたい方はこちらへ「特定外来生物とアリに関する情報」<https://www.env.go.jp/nature/intro/2outline/attention/hiar.html>

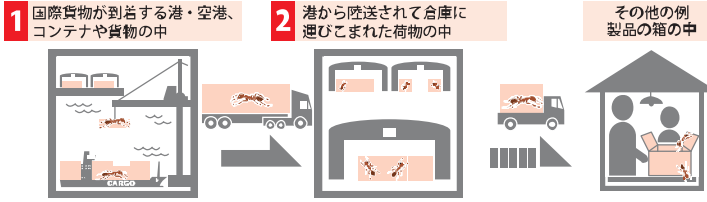
発行 環境省自然環境局 制作 一般財団法人自然環境研究センター
発行元 環境省自然環境局 野生生物課外来生物対策室 TEL03-5521-8344 FAX03-3504-2175



2019年3月発行

どうして、ヒアリが日本に？

2017年6月、日本でヒアリが初めて確認されました。ヒアリは、本来、南米中部に生息するアリです。しかし、船や飛行機に積まれたコンテナや貨物にまぎれ込んで、1940年代頃からアメリカ合衆国やカリブ諸島に次々と侵入し、2000年代には原産地から遠く離れたオーストラリア、ニュージーランド、中国、台湾でも発見されるようになりました。日本へも同じような経路で海外からやってきたと考えられます。国内では、次のような場所で確認されています。



いったん繁殖してしまうと、根絶はきわめて困難です！

ヒアリが侵入した国では、莫大な費用をかけて駆除を行っていますが、ニュージーランドを除いて根絶には至っていません。ニュージーランドは、侵入初期に徹底した対処を行ったため、唯一根絶に成功しています。また、根絶後も再び侵入しないよう警戒を続けています。日本では、国が関係機関と連携して主要港湾等で定期的に入侵状況の調査を実施し、発見された際には緊急駆除とモニタリング（継続的な監視調査）を行っています。

**早期発見
早期防除
が重要！**

海外では、こんな場所に巣をつくっています。

ヒアリは、日当たりの良い開放的な場所を好んで巣をつくります。海外の定着国では以下のような場所で見られます。



ヒアリは、大きな「アリ塚」をつくります。アリ塚は地中で深く広くひろがっていて、放射状に地下トンネルが十数メートル先まで伸びています。迷宮状にたくさんの部屋があり、女王アリと数千から数十万匹もの働きアリが集団で生活しています。

注意

アリ塚が大きく目立つようになるまでには2〜3年かかります。その間に、ヒアリはどんどん増えたり拡がったりして、時間が経つほど根絶することは難しくなります。大きなアリ塚を目印にヒアリを見つけようとするのではなく、そうなる前に発見して駆除することが大切です。

女王アリは巣に異変を感じると、トンネルを通して外へ逃げ出し、別の場所に新たに巣をつくってしまいます。

女王アリの寿命は6-7年程度で、毎年、25万個の卵を産みます。

巣の中では、たくさんの働きアリが、女王アリの産んだ卵や幼虫の世話をしています。

ヒアリって、どんなアリ？ 外来生物法により特定外来生物に指定されています



和名 ヒアリ (別名アカヒアリ)
英名 Red imported fire ant
学名 *Solenopsis invicta*



働きアリ 体長2.5〜6mm程度	女王アリ 体長7〜8mm程度	雄アリ 体長5〜6mm程度
一歩数が多く、刺すアリです。	羽化した時には翅がありますが、交尾後は翅を落とします。	体は黒っぽく、翅があります。交尾のため果立ち、数日で寿命を迎えます。

ヒアリの仲間「アカカミアリ」
ヒアリとよく似たアリにアカカミアリがいます。ヒアリほど毒は強くありませんが、アカカミアリも特定外来生物に指定されていて、注意が必要なアリです。

※特定外来生物 外来生物のうち、生態系、人の生命・身体、農林水産業へ被害を及ぼすものや、及ぼすおそれがあるものを「外来生物法」に基づき指定された生物。飼育・運搬・保管・輸入・譲渡等が規制されています。

間違えやすい種類

第1位 キイロシリアゲアリの女王
9月頃、オレンジ色の女王アリが巣づくりのため外に出てきて、目につきやすいので、「ヒアリではないか?」との問い合わせの多いアリです。

第2位 アリゲモ類
アリゲモ 体長5〜7mmのとても小さなクモです。「見慣れないアリ」と思われるため、よく間違われます。

ヤガタアリゲモ

定着すると、私たちの暮らしにもさまざまな影響があります！

- ◆人やペットへの健康被害**
刺されると強い痛みが生じ、体質等によっては強いアレルギー反応（アナフィラキシーショック）を起こすおそれがあります。*詳しくは裏面
犬や猫などのペットも、刺されると人と同じように、重い症状を起こすことがあります。
- ◆生活への影響**
お花見やピクニック、BBQ、花火大会など、公園や河川敷でのレジャーを安心して楽しむことができなくなるかもしれません。ガーデニング、家庭菜園にも支障が出ます。
- ◆電気設備・インフラ被害**
電気設備（配電盤や変圧器、機械の内部）に巣をつくり、信号機や空気の着陸灯を故障させたりします。また、雪線をかじって停電を引き起こしたり、シールドさせて火災の原因となることもあります。
- ◆農業被害・産業への影響**
農作物をかじって品質や収量を低下させたり、家畜を襲ったりします。また農作業をする人が須臾に刺されるため、海外では耕作放棄や離農者が増えるなどの影響が出ています。輸入された商品などにヒアリが混入すると、物流にも大きな支障が出ます。
- ◆生態系被害**
日本の在来アリを駆逐したり、小動物を捕食して減少させ、生態系のバランスを壊してしまいます。海外では希少種にも影響が出ています。